

## 北海道の鉄道のスタート地点

02

ほっかいどう

てつどう

かいつう

きてん

## 北海道鉄道開通起点

■所在地：小樽市手宮1丁目3番6号

■問合せ先：小樽市総合博物館（TEL 0134-33-2523／見学には入館料が必要です）

■休館日：毎週火曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始、臨時休館あり



北海道初の鉄道「官営幌内鉄道」建設のために、この場所で測量調査が行われたことを記念して昭和17（1942）年に顕彰された場所です。

鉄道の「起点」とは、路線の始点のことです。鉄道では、始点からの距離を測定するための表示（木や石の標柱）が置かれますが、始点は「0」kmの表示となり、通称「0キロ（マイル）ポイント」と呼ばれます。

詳細は明らかではありませんが、明治13（1880）年に手宮に停車場が設置された時点で、鉄道建設や営業に必要不可欠であった「0マイル（開設当時はマイル表記）ポイント」が設けられたと考えられています。

明治15（1882）年に幌内鉄道が全線開通した後、手宮停車場付近には、操車場、車両工場に加え、貯炭場や石炭の積出施設が作られていきました。

その後、幌内鉄道は北海道炭礦鉄道に譲渡され、明治39（1906）年に国有化されます。国有化後も手宮地区の鉄道施設は石炭積出しの拠点として稼働し続けますが、次第に手狭となり、新たな鉄道基地としてなえぼ（札幌市）やちっこう（小樽築港）が整備されると、操車場や機関区はそちらに移転していきました。

手宮線の北海道の大動脈としての役割が減少し始めた昭和17年に、北海道鉄道発祥の地を顕彰するため、改めて「北海道鉄道開通起点標」が設けられました。

昭和41（1966）年、顕彰碑は国鉄（当時）により「準鉄道記念物」に指定され、さらに、0マイルポイントを始め貯炭場を含めた旧手宮駅構内は北海道鉄道発祥の地として、市の史跡に指定されました。

## ●キーワード：幌内鉄道と手宮線

開拓使によって計画、建設された官営幌内鉄道は、明治22（1889）年に民間の北海道炭礦鉄道に売却され、旧幌内鉄道の部分は「炭礦鉄道幌内線」となる。さらに明治39（1906）年、再び国営化され、3年後の明治42年に「手宮線」「函館本線」「幌内線」に区分される。



【写真】1 北海道鉄道開通起点標 2 明治中期の手宮駅構内（小樽市総合博物館所蔵）